



羽搏きは喝采に似て鶴帰る	千田 百里
風花や唇といふ熱きもの	林 昭太郎
如月や逆らふ事も生きること	能美昌二郎
束ねたる書は知の地層春惜しむ	峰崎 成規
菜の花や中天くもりながら照る	辻 美奈子
俯く春の涙は未来へと	千田 敬
一途なる思ひ春泥ためらはず	栗原 公子
火の色を蔵す大地や下萌す	頓所 友枝
稜柔き砂の流紋涅槃西風	大沢美智子
燦燦と光りのゑくぼ木の根明く	矢崎すみ子
居直りとも立直りとも葱坊主	木村 公子
目借時爪の先までよく眠り	大畑 善昭
せせらぎは日差しの音譜芹を摘む	田所 節子
北窓開くソーラーパネル乱反射	甲州 千草
静かとは花の雨来る気配かな	七田 文子
昼と夜重なつてゆく紫木蓮	関根 瑤華
アネモネや腕は武器を喜ばず	平松うさぎ
野火走る謀叛のほひして走る	くどうひろこ
狂ひたるもののかたちに野焼かな	中村 重幸
夜のぶらんこ大人にもある反抗期	小林 陽子
花過ぎの木椅子向き合ふやうに置く	小川 流子
生き生きて見ゆるものあり魚は氷に	阿部眞佐朗
ものの芽の大地を弾く息吹かな	平城 静代
吾もまたあかあかと生く冬木の芽	宮坂 秋湖
青空に鐘鳴るを待つ春を待つ	須賀ゆかり
初芝居ほがらほがらに成駒屋	栗坪 和子
かげろふを追ふ牛もまた陽炎へ	小坂 尚子
一本の藁にはじまる野焼かな	里村 梨邨
嘴にひかり集める春の鴨	吉村さよ子
遙かなるいのちを紡ぎ物芽出づ	佐々木 茂

沖 の 水 脈

